

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

【中期目標・指標】

○令和7年度の全国調査の標準化得点:国語100 算数103 以上

【短期目標・指標】

○令和4年度の全国調査の標準化得点:国語98 算数102

3. 指標にむけての取組

- ねらいを明確にした授業の実施(指導→評価→次の指導)
- 重要単元における取り組み
(全学級における算数科の複数体制、分割授業(習熟度別学習)による指導の実施)
- 標準学力検査の結果を受けてのフォローアップシートの完全実施
- 補充学習(重要単元テスト85点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)
- 1年生からのきめ細やかな言語指導(MIMの実施)
- 家庭との連携による週末も含めた家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)
- 土・日の10分読書
- 主題研修(論理的に考える児童が育つ学習指導の研究～プログラミング活動を通して)を中

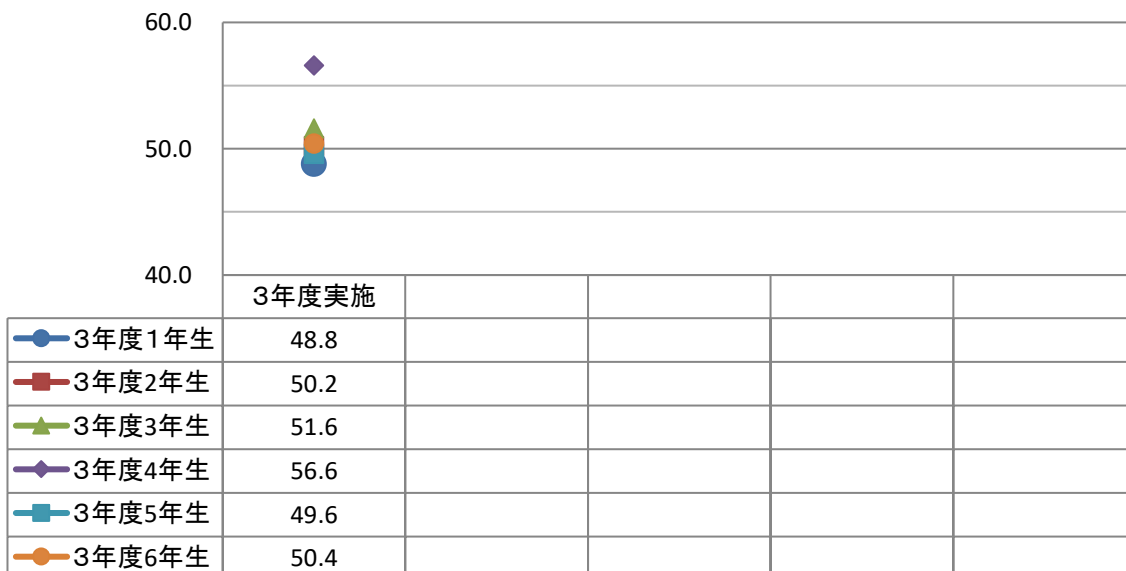
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

全国値の正答率を50とした時に対して

年度	R3年度				
本校(A)	51.2				
嘉麻市(B)	47.0				
(A)－(B)	4.2				
全国正答値との差 (A)－(50)	1.2				

各学年の推移



5. 各学校における分析

全校の結果は、国語は50.9、算数は51.5であり、どちらも50をこえ、全国正答値を1.2ポイント上回っている。このことから、算数科重要単元における分割授業(習熟度別学習)や、習熟場面において複数体制を生かした基礎・基本の定着、読解問題の解説など、日常の指導の取組が一定の成果を上げ、有効だったと考える。

今後も実態をしっかりと分析して、児童の力が発揮できるように、重要単元における少人数分割授業(習熟度別学習)、朝活動の複数体制などよきめ細やかな個に応じた取組を継続していく。

6. 各学校における今後の取組

【日常の授業や学校生活における取組】

- 指導方法の工夫を今後も継続し、重要単元における複数体制、分割授業を実施し、学力基盤づくりを目指す。(専科・補助教員の有効活用、授業形態の工夫)
- 朝活動を計画的に行い、複数体制による「ぐんぐんタイム」で、算数や国語、学級の実態に応じた問題などを行い、基礎基本の定着を図る。
- 授業に目的・観点・方法を明確にした書く活動・交流活動を多く取り入れ、ねらいを明確にした授業づくりを行う。
 - ・書く視点をしぼり、自分の考えを理由や根拠を示しながら書き、交流につなげる。
 - ・学習のまとめやふり返りを、次の学習に生かせようとして視点を設け書かせるようにする。
- 主題研修を中心として、「論理的に考える児童が育つ学習指導の研究～プログラミング活動を通して」について研修を進める。

【家庭との連携】

- 標準学力検査の結果の公表を行い、これまでの取組とその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化・個別化についての協力を求めていく。
- 週末も含め、家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率95%以上を目指す。
- 土・日の10分間読書の取組を推進していく。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。